

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

主 論 文 の 要 旨

論文題目 現代日本語の形容詞の分類
—構文における振る舞いを基準にして—

氏 名 権 裕 羅

論 文 内 容 の 要 旨

本研究は、現代日本語の形容詞の分類について考察するものである。本研究では構文における振る舞いを基準にして、日本語の形容詞を感情度の高いものから属性度の高いものまで「憎い」類、「嬉しい」類、「寂しい」類、「熱い」類、「危ない」類、「少ない」類、「赤い」類の七つに分類できることを指摘した。

形容詞には「少ない」や「赤い」のように事柄や事物の量・色など属性を表すものもあれば、「嬉しい」や「憎い」のように人の感情を表すものもある。形容詞が属性を表すものであるか感情を表すものであるかによって、構文上の使用においても違いが現れる。例えば、(1) に示すように副詞「ずいぶん」は属性形容詞には付きやすいが感情形容詞には付きにくい。一方、「～てならない」は属性形容詞には付きにくい感情形容詞には付きやすいという傾向が見られる。

- (1) ずいぶん {少ない/*嬉しい}。
- (2) {*少なく/嬉しく} てならない。

このように、形容詞の意味（属性・感情）の違いは、構文上の使用における違いとして現れるため、本研究では構文上の使用の違いに基づき形容詞の分類を行った。本論文は、第1章から第7章までの全7章から構成されている。

第1章では、本研究では客観的な基準を使って形容詞を感情度の高いものから属性度の高いものまで分類するのが目的であることを述べ、次の指標を用いることを論じた。

- ・「～てならない/たまらない/しかたがない」構文との共起
- ・他動詞構文「XガYヲ～クスル」、使役構文「XガYヲ～クサセル」との共起
- ・比較構文「XガYヨリ～い」との共起
- ・程度副詞「非常に」「とても」「なかなか」「大変」「かなり」「ずいぶん」「相当」「だいたい」

「ちょっと」「少し」「やや」との共起

また、分類の対象とする形容詞 275 語やその選定方法を示した。

第2章では、形容詞の分類に関する先行研究を概観した。先行研究の分類の観点は大きく三つに分けられる。一つ目は、形容詞の文型など文法現象に基づき形容詞を大きく主観的な語（感情形容詞）と客観的な語（属性形容詞）の二つに分類したものであり、時枝（1950a）、西尾（1972）、細川（1989）、村上（2017）が挙げられる。二つ目は、形容詞文全体の機能的な意味（感情表出、属性規定、状態描写…）から形容詞を感情表現（感情形容詞）と性状規定（叙述形容詞）に分類したものであり、草薙（1977）、寺村（1982）、山岡（2000）が挙げられる。三つ目は、形容詞が一時的な状態を表すか通常的な特性を表すかという時間的限定から形容詞を状態形容詞と質形容詞に分類したものであり、荒（1989）、樋口（1996）が挙げられる。本研究ではこのうち時枝（1950a）、西尾（1972）、細川（1989）、村上（2017）と同様に、形容詞に関わる構文の特徴を指標として用いた。また、細川（1989）と村上（2017）と同様に、複数の指標を用いてその可否を合わせて総合的に判断することで、形容詞を多様な側面から分類し特徴づけた。その結果、本研究では、形容詞を感情度の高いものから属性度の高いものまで、「憎い」類、「嬉しい」類、「寂しい」類、「熱い」類、「危ない」類、「少ない」類、「赤い」類という七つの分類を示した。

第3章では、「～てならない」「～てたまらない」「～てしかたがない」と共起する形容詞の特徴について論じた。従来、これら三つの表現は感情・感覚を表す動詞・形容詞が付いて、その程度が甚だしいことを表すものであるとされている。本研究では、形容詞には感情度の高いものから属性度の高いものまで段階があると考え、各表現が共起する形容詞の違いと本研究における形容詞の七分類との関連性を表1に示す。

表1 「～てならない/たまらない/しかたがない」と形容詞の七分類

	感情を表す			感覚を表す	評価を表す	属性を表す	
	① 「憎い」類	② 「嬉しい」類	③ 「寂しい」類	④ 「熱い」類	⑤ 「危ない」類	⑥ 「少ない」類	⑦ 「赤い」類
～てならない	○	○	○	×	×	×	×
～てたまらない	○	○	○	○	△	×	×
～てしかたがない	○	○	○	○	○	△	×

表1に示されるように、全体的に三つの表現は、①「憎い」類、②「嬉しい」類、③「寂しい」類のように感情度の高い形容詞と共起し、⑦「赤い」類のように属性度の高い形容詞とは共起しにくい点で共通している。しかし、④「熱い」類、⑤「危ない」類、⑥「少ない」類においては違いが見られる。このように、三つの表現では形容詞と共起する範囲に違いがある。本研究ではこれに基づき、「～てならない」「～てたまらない」「～てしかたがない」を形容詞の分類の一つとし、形容詞を五つの段階に分けた。これを表1の縦の太線で示す。

第4章では、他動詞構文「XガYヲ～クスル」と使役構文「XガYヲ～クサセル」と共起する形

容詞の特徴について論じた。本章では、「XガYヲ〜クスル」構文（以下、「〜スル」構文）と「XガYヲ〜クサセル」構文（以下、「〜サセル」構文）にどのような形容詞が共起するか、さらにヲ格名詞句にどのような語が来るかを見ることによって、コントロールによる属性・感情の変化の特徴を論じ、形容詞が六段階に分けられることを主張した。

本章では、「〜スル」構文と「〜サセル」構文のうち状態変化の対象になるヲ格名詞句に注目し、ヲ格名詞句に現れる語を「有情物」「心」「カラダ」「コト」「モノ」の五つに分け、これらと共起する形容詞の特徴を見た。各構文と形容詞の七分類の共起関係を表2に示す。

表2 「〜スル」「〜サセル」構文と形容詞の七分類

		感情を表す			感覚を表す	評価を表す	属性を表す		
		① 「憎い」類	② 「嬉しい」類	③ 「寂しい」類	④ 「熱い」類	⑤ 「危ない」類	⑥ 「少ない」類	⑦ 「赤い」類	
スル	有情物	×	×	○	○	○	○	○	
	有情物の部分	心	×	△	○	○	○	○	×
		カラダ	×	×	×	○	○	○	○
	非情物	コト	×	×	○	○	○	○	○
		モノ	×	×	×	○	○	○	○
サセル	有情物	×	○	○	○	○	○	×	
	有情物の部分	心	×	○	○	○	○	○	×
		カラダ	×	×	×	○	○	○	○
	非情物	コト	×	×	○	○	○	○	○
		モノ	×	×	×	○	△	△	×

表2に示されるように、「〜スル」構文も「〜サセル」構文も①「憎い」類のように感情度の高い形容詞とは共起しにくい、④「熱い」類、⑤「危ない」類、⑥「少ない」類のように属性度の高い形容詞とは共起する傾向がある。一方、②「嬉しい」類、③「寂しい」類、⑦「赤い」類の三つは、「〜スル」構文、「〜サセル」構文と共起する場合もあれば共起しない場合もあり、例えば「嬉しい」類は「花子の心を嬉しくする」（「心ヲ〜クスル」）は成り立つが「*ピクニックを嬉しくする」（「コトヲ〜クスル」）は成り立たない。このように「〜スル」構文、「〜サセル」構文と形容詞の七分類の共起関係を大きく六つの段階に分けた。

第5章では、比較構文「XガYヨリ〜い」と共起する形容詞の特徴について論じた。本章では、まず比較の対象であるX、Yが「人」「モノ」「コト」であるかどうかを見て、形容詞が三つの比較構文（「人₁ガ人₂ヨリ〜い」「モノ₁ガモノ₂ヨリ〜い」「コト₁ガコト₂ヨリ〜い」）と共起するかどうかを見た。各構文と形容詞の七分類の共起関係を表3に示す。

表3 三つの比較構文と形容詞の七分類

	感情を表す			感覚を表す	評価を表す	属性を表す	
	① 「憎い」類	② 「嬉しい」類	③ 「寂しい」類	④ 「熱い」類	⑤ 「危ない」類	⑥ 「少ない」類	⑦ 「赤い」類
人 ₁ ガ人 ₂ ヨリ～い	×	×	△	△	○	○	○
モノ ₁ ガモノ ₂ ヨリ～い	×	△	○	○	○	○	○
コト ₁ ガコト ₂ ヨリ～い	×	○	○	○	○	○	○

表3に示されるように、三つの比較構文はいずれも⑤「危ない」類、⑥「少ない」類、⑦「赤い」類のように属性度の高い形容詞とは共起する。一方、①「憎い」類、②「嬉しい」類、③「寂しい」類、④「熱い」類の四つは、三つの比較構文と共起しないか共起しにくく、例えば①「憎い」類は「*私は花子より憎い」（「人₁ガ人₂ヨリ～い」）や「?その言葉が他のどの言葉よりも憎い」（「コト₁ガコト₂ヨリ～い」）のように比較構文が成り立ちにくい。このように三つの比較構文と形容詞の七分類の共起関係を大きく四つの段階に分けた。

第6章では、程度副詞「非常に」「とても」「なかなか」「大変」「かなり」「ずいぶん」「相当」「だいたい」「ちょっと」「少し」「やや」と共起する形容詞の特徴について論じた。本章では、11語の程度副詞「非常に」「とても」「なかなか」「大変」「かなり」「ずいぶん」「相当」「だいたい」「ちょっと」「少し」「やや」が属性、感情を表す形容詞と共起するかを見て、11語の程度副詞の共起範囲の違いによって形容詞が四段階に分けられることを主張した。また、「非常に嬉しい」は成り立つが「*なかなか嬉しい」はなぜ成り立たないかのように、程度副詞によって共起する形容詞の範囲が異なる理由について、疏（2018）の比較内容（比較基準と比較差）を参考にしながら考察した。

11語の程度副詞「非常に」「とても」「かなり」「ちょっと」「少し」「やや」「相当」「大変」「なかなか」「ずいぶん」「だいたい」と本研究の形容詞の七分類の共起関係を表4に示す。

表4 程度副詞11語と形容詞の七分類

	感情を表す			感覚を表す	評価を表す	属性を表す	
	① 「憎い」類	② 「嬉しい」類	③ 「寂しい」類	④ 「熱い」類	⑤ 「危ない」類	⑥ 「少ない」類	⑦ 「赤い」類
非常に～い	○	○	○	○	○	○	○
とても～い	○	○	○	○	○	○	○
かなり～い	○	○	○	○	○	○	○
ちょっと～い	○	○	○	○	○	○	○
少し～い	○	○	○	○	○	○	○
やや～い	○	○	○	○	○	○	○
相当～い	○	○	○	○	○	○	○
大変～い	○	○	○	○	○	○	×
なかなか～い	×	×	○	○	○	○	×
ずいぶん～い	×	×	△	○	○	○	○
だいたい～い	×	×	○	○	○	○	○

表4に示されるように、程度副詞11語は④「熱い」類、⑤「危ない」類、⑥「少ない」類のよう

に感覚・評価・属性を表す形容詞と共起する。一方、①「憎い」類、②「嬉しい」類、③「寂しい」類、⑦「赤い」類に関しては、共起するものもあれば共起しないものもある。例えば、①「憎い」類と②「嬉しい」類は「なかなか」「ずいぶん」「だいぶ」と共起せず他の副詞八語と共起するが、③「寂しい」類は「ずいぶん」のみと共起しにくい。このように程度副詞 11 語と形容詞の七分類の共起関係を大きく四つの段階に分けた。

第7章では、以上の第3章から第6章までの分析を踏まえて形容詞 275 語を形容詞①～⑦類の七つに分類し、今後の課題について述べた。